

早まきが可能で、耐倒伏性に優れる 大豆新品種「ふくよかまる」の特徴と栽培法 適期播種で大豆の収量安定化をめざす

福岡県農林業総合試験場 農産部 作物栽培チーム チーム長 石塚明子

福岡県における大豆は、作付面積8,090haで全国4位の主産県であり（農林水産省作物統計2023）、土地利用型農業の基幹作物となっている。しかし、近年、従来品種「フクユタカ」の単収が低迷しており、実需者から安定供給可能な品種の開発が強く求められている。主な収量低下の要因としては「フクユタカ」の播種適期が7月上～中旬と狭く、その時期は北部九州の梅雨末期と重なるため、年次によっては大雨により播種が遅れ、大豆の生育量が不足することである。

比較的気候が安定した6月に播種する早まきを検討したが、「フクユタカ」では過繁茂となり、倒伏の可能性が高く、実施するのは困難であった。そこで、福岡県農林業総合試験場では「フクユタカ」より多収で、早まきしても倒伏しにくい「ふくよかまる（ちくしB5号）」を育成した。今号では「ふくよかまる」の特徴と栽培のポイントについて紹介する。

「ふくよかまる」の育成経過と特徴

「フクユタカ」より多収で、早まき適性およびコンバイン収穫適性があり、豆腐加工適性が同等に優れる「ちくしB5号」を育成し、2021年8月に品種登録された。また、消費者に広く親しみを持ってもらえるよう、品種名「ちくしB5号」の商標を「ふくよかまる」と名づけた。「ふくよかまる」の名前の由来は、大豆が大きく元気に「ふくよか」に育ち、皆さまに「福」を届けたいとの思いと、大豆の「まるい」形を表したものである（図1）。

「ふくよかまる」は「フクユタカ」に比べて、播種適期が7月1日～20日と広く、県北部では6月下旬から播種が可能である。また、成熟期はやや早く、主茎長はやや短く、倒伏に強く、百粒重が重く、収量は8%程度多い（表1、写真1）。なお、「ふくよかまる」の子実のへその色は“黄”で、「フクユタカ」の“淡褐”とは異なる（表1、写真2）。また、豆腐の加工適性では、複数の実需者から「フクユタカ」と同等の評価を受けている（データ省略）。



図1 「ふくよかまる」のロゴマーク

表1 「ふくよかまる」の特徴

	ふくよかまる	フクユタカ
成熟期(月日)	11月1日	11月2日
主茎長(cm)	67	70
最下着莢高(cm)	13.0	11.6
耐倒伏性	やや強	中
青立程度	微～少	少～中
百粒重(g)	32.4	30.9
収量(kg/10a)	366 (108%)	339 (100%)
外観品質	中の上	中の上
へその色	黄	淡褐
タンパク質含有率(%)	44.8	45.7

「ふくよかまる」は福岡県農林業総合試験場における2012～2015年の試験データ「フクユタカ」は2007～2016年の試験データをもとに作成（7月10日まき）
成熟期は両品種ともに、2016年～2023年(2020年を除く)の試験データをもとに作成



写真1 草姿の比較 ふくよかまる(左)、フクユタカ(右)

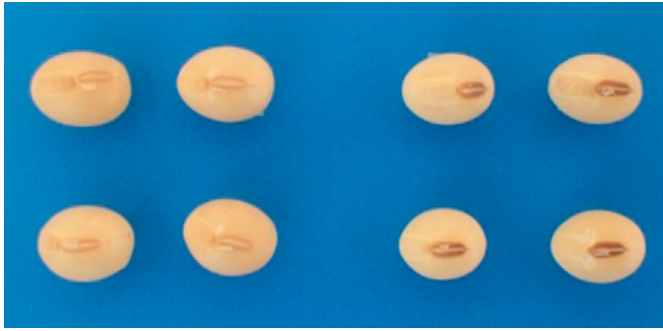


写真2 子実の比較 ふくよかまる(左)、フクユタカ(右)

「ふくよかまる」の栽培のポイント(図2)

排水対策と土づくり

播種前に土づくり、排水対策を行い、播種適期になったら速やかに播種できる圃場条件とする。水稻、麦との水田輪作では、稲わら、麦わらなどの作物残渣は貴重な有機物供給源であるため、土壌にすき込むことを基本とする。また、土壌診断に基づいた土壌改良材や肥料の施用を行う。

播種のポイント

播種期に応じた播種量を設定し、適正な出芽本数を確保する(表2)。早まきできる特性を活かし、7月20日までの適期内に播種をする。

乾燥対策

近年、温暖化の影響から大豆の生育期間が高温、干ばつ傾向となっている。梅雨明け後は、乾燥状態となる場合が多いため、大豆の出芽を確認したら、暗渠の栓を閉じて、乾燥害を回避する。

収穫のポイント

「ふくよかまる」の成熟期は「フクユタカ」より早いいため、刈り取り時期に留意し、適期に適切な作業速度で収穫を行う。子実水分が高い状態で早く収穫すると、その

表2 播種期別の播種量の目安

	播種期	条間(cm)×株間(cm)	播種量(kg/10a)	播種数(粒/m ²)	1条1m 目標出芽本数
播種密度	6月下旬	70×25~30	2.9~3.4	9~11	6~8
	7月上旬	70×20~25	3.4~4.3	11~14	8~10
	7月中旬	70×15~20	4.3~5.7	14~19	10~13

後の脱穀、乾燥に影響し、汚粒やしわ粒などの品質低下を招くおそれがある。また、収穫が遅すぎると、莢水分が低下して裂莢による減収や、降雨によりカビなどが発生し、品質低下を招くおそれがある。

病害虫防除のポイント

近年では、開花期～成熟期に至るまで、気温が高く推移し、害虫による被害が長期化している。病害虫についても圃場の発生状況、発生予察などの防除情報をもとに適期防除が必要である。

「ふくよかまる」の普及状況

福岡県は「ふくよかまる」を2022年産から導入し(表3)、2025年産に「フクユタカ」から全面切り替えの予定である。また、大分県でも同様に2025年産から「フクユタカ」から「ふくよかまる」に切り替え予定である。

【監修：(公社)農林水産・食品産業技術振興協会】

表3 福岡県大豆作付面積の動向(ha)

品種名	年産				
	2019	2020	2021	2022	2023
ふくよかまる	21	17	65	789	4,366
フクユタカ	8,154	8,134	8,100	7,349	3,705
その他	75	69	25	22	19
大豆合計	8,250	8,220	8,190	8,160	8,090

福岡県水田農業振興課調べ

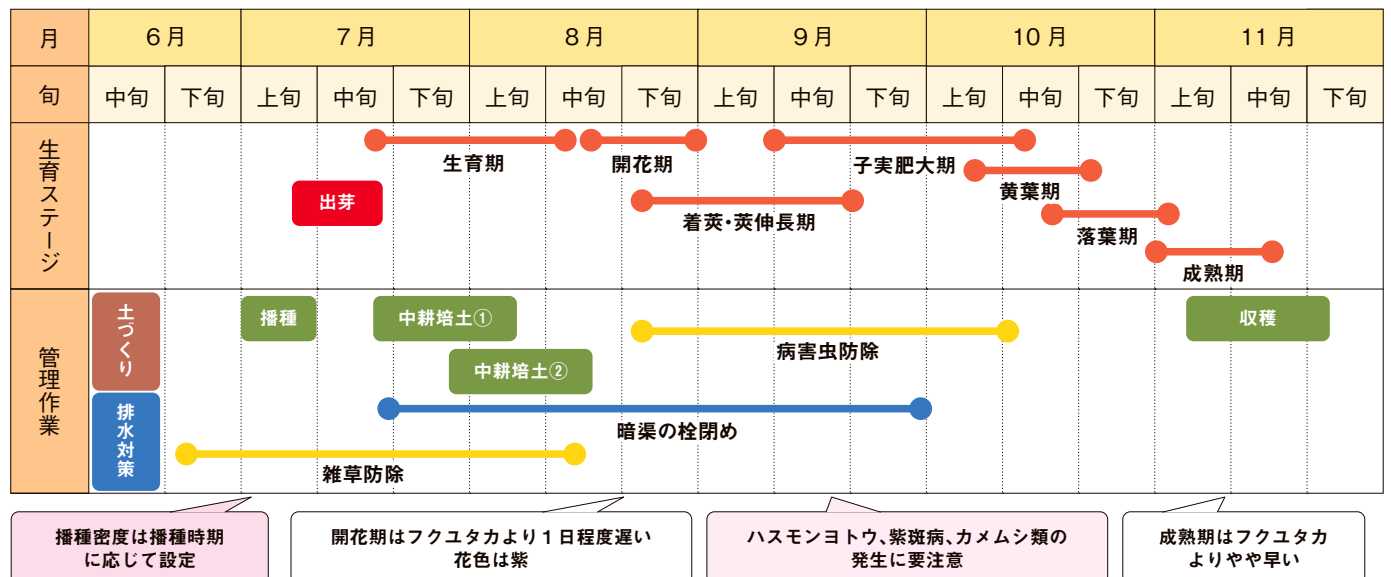


図2 「ふくよかまる」栽培暦(7月上旬播種の場合)